

高梁市農林課

～ 耕作放棄地を解消し、年越しそばと豆腐を食べよう ～

高梁市は、岡山県の中西部に位置し、県下三大河川の高梁川が中央部を南北に貫流し、その両側に吉備高原が東西に広がっている中山間地です。地勢は総じて西に高く東に低く高梁川と成羽川、その支流に沿って帯状に曲折した傾斜部および高原部分とからなっており、城下町の古い町並みを残しています。

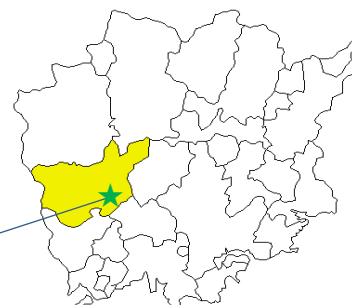
近年、農村部の高齢化に伴い、年々耕作放棄地が増加傾向にあることから、平成23年7月から始めた「耕作放棄地解消ツアー」は2年目となります。募集人員は20名(先着)、耕作放棄地で草刈り、大豆やそばの作付け、収穫、加工・試食の体験ができます。体験を通して消費者と農業者が交流し、農村部の活性化に繋がっています。

取組主体

- 名称 高梁市産業経済部 農林課
- 所在地 岡山県高梁市落合町近286-1
- 代表者 農林課長 赤木 佳久
- 協力者 布寄研精会(コミュニティ団体)
- 連絡先 高梁市産業経済部農林課 農業振興係
- 電話 0866-21-0223
- FAX 0866-22-9460
- HPアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp>

高梁市

岡山県



活動の動機・目的

耕作放棄地に作物を栽培し、農地を復元する。消費者と生産者が共に作業や収穫物を食し、自然のすばらしさ、食の大切さを体験することで、耕作放棄地の解消や人的交流を図り、農村部が活性化することを目的に実施しています。

活動の紹介

24年度の「耕作放棄地解消ツアー」は、年5回実施。大豆やそばの播種、収穫、加工・製造、試食ができるコースとなっています。

そばの収穫の様子 (平成24年10月27日(土))

当日はそばの収穫・脱穀作業を行いました。

参加者19名(大人15名、子供4名)、スタッフ15名(地元生産者7町内会で結成)で、そば10アールを手作業で刈り取り脱穀しました。今年のそばの成りは良いようです。



そばの刈り取り作業

束ねる作業



おいし～い

疲れた！
楽し～い！

みんなで昼食



脱穀～ふるい分け作業



足踏み式脱穀機の掃除



片付け作業

取組内容

★ 地域関係者との連携

- ・ 耕作放棄地解消ツアーの実施を地域の会長に相談したところ、会長、地元農業者とも快諾された。
- ・ 農産物の生産管理、調整・加工・製品化に向けての指導・作業等は、地元農業者が支援。
- ・ 市の委託事業として予算化。当面は「耕作放棄地解消ツアー」を実施。

★ 体験活動の運営

- ・ 課内会議で、耕作放棄地の解消に向け「耕作放棄地解消ツアー」の取り組みを決定。
- ・ 初年度は、参加者の募集時期や農作物の生育、作業内容を考慮し、そばだけの体験から始める。
2年目は大豆を追加したが、今後は農作物の生育ステージを考慮し検討する。
- ・ 市は、参加者の募集や体験の日程の設定、参加者の送迎を担当。
- ・ コミュニティ団体は、当日の作業計画を作成し、指導・体験作業等を担当。
- ・ 地元女性部は、昼食を準備・提供するなど、側面的な支援。
- ・ 体験最終日にアンケートを取り、次年度の参考にしている。
- ・ 事業の受け入れ先の有無が一番の課題。
- ・ 参加人数を確保できるかが鍵、多すぎても少なすぎても困る。市外からの参加者に期待。
- ・ 将来的には、各地域・農業者等が独自に活動。行政は側面的な支援としたい。
- ・ 耕作放棄地解消に向け、各地域に復元する拠点を拡大する予定であるが、地域の協力者等の有無が課題。



★ 参加費の設定

昼食代とイベントの保険料を徴収。

★ 参加者の集め方

市外からの参加者に重点を置き、マスコミ(新聞、ラジオ)の活用、ホームページで参加者を募集。

そばの花
(白)



将来の夢(目標)

地域住民が特色を生かした土地利用や活動をすることで耕作放棄地が有効に活用され、各地域ごとに参加者が多くなり、都市部住民と地元農業者との交流が盛んに行われることで、地域が活性化・発展し、高梁市に移住される方が増加することを期待している。

高梁市産業経済部 農林課長: 赤木 佳久



みんなの声

(参加者)

- ・ 作業する前は、やり遂げられるかどうか心配した。みんなで力を合わせ、やり終えた時のうれしさは特別。みんなの力はすごいと思った。(小5女)
- ・ 体育や勉強より疲れるが楽しい。(小5男)
- ・ 子どもたちに、みんなで協力し合い一つの作業をやり遂げることの喜び、体を動かすことの喜びを味合わせてやりたかった。(40代男性(岡山市)、小3・小5女)
- ・ 家にこもりゲームばかりするより、自然の虫や栗に触れ、自然の神秘を感じてほしい。また、体験の苦労を味わうことで食べ物に対する好き嫌いがなくなれば有難い。(40代男性(岡山市)、小3・小5女)
- ・ 体験することで、農産物の値段が高いのが理解できる。
食への感謝の気持ちを忘れてはならない。(60代女性(倉敷市))



(スタッフ(布寄研精会))

- ・ 参加者が作業によりけがをしないか心配であるが、のびのびと体験してもらいたい。
- ・ 大人も子どもも真剣な表情で取り組んでいる。見ていてとても好感が持てる。
- ・ 計画通り実行できるかどうかは天候次第なので、天候には気を遣う。
- ・ ツアーをきっかけに過疎地に居住する人ができることを期待している。

